

## 若者にも格好いい！と大人気のFUKURAM！



利用客も190万人突破、2号もまもなく。乞うご期待！！

### 活動報告

- 6月18日 ROBA 理事会・例会
- 19日 えちぜん鉄道株主総会
- 23日 福井鉄道株主総会
- 26日 CFDF 第1回福井JCとの打合せ
- 26日 つながろっさ交歓会
- 28日 鯖江市環境フェア 2014
- 7月2日 CFDF 参加予定者説明会
- 11日 CFDF 第2回福井JCとの打合せ
- 13日 エコカレッジ NPOの紹介
- 16日 ROBA 理事会・例会

### 今後の予定

- 7月25～26日 JCOMM 会議（帯広）
- 26～27日 中部地区路面電車サミット(高岡)
- 29日 CFDF2014 第1回実行委員会  
(土用の丑の日)
- 31日 CFDF2014 第3回福井JCとの打合せ
- 8月 20日 ROBA 理事会・例会

## ゆうじんの部屋 書籍紹介

(まもなく追加予定)

## えちぜん鉄道と福井鉄道の株主総会報告

内田佳次

### えちぜん鉄道(株) 第12回定時株主総会

日時：平成26年6月19日 15:00~16:00

報告事項 第12期 事業報告および計算書類報告の件

決議事項 第1号議案 取締役11名選任の件

第2号議案 監査役1名選任の件

いずれも全会一致で承認されました。

#### (概要)

平成25年度の年間利用者は329万8千人となり、昨年比で4万1千人、約1.3%の伸びでした。一昨年10月より開始した福井鉄道との連絡運賃制度「フェニックス田原町ライン」は2年目の年間目標の3万人を上回る3万7千人の利用があった。26年1月からは相互乗り入れ事業による田原町駅の取り壊し、仮設駅화가すすめられている。

経常損失は9千万円。国、県からの補助があり税引き後純利益は約3百万円。

平成25年度より福井駅付近連続立体交差化事業が本格化し、平成30年秋の完成を目指している。昨年5月えちぜん鉄道発足以来初の責任事故が発生しました。原因究明と入換信号設備の改善、基本動作の徹底、知識向上の努力を続けていきます。

相談役 見奈美 徹氏は6月30日をもちまして退任いたしました。

### 福井鉄道(株) 第99回定時株主総会

日時：平成26年6月23日 10:00~11:00

報告事項 第99期事業報告内容報告の件

決議事項 第1号議案 第99期 計算書類承認の件

第2号議案 取締役4名選任の件

第3号議案 退任取締役に対する退職慰労金贈呈の件

いずれも全会一致で承認されました。

#### (概要)

**鉄軌道事業**：地域公共交通バリア解消促進事業により北府駅検車庫を新築し、田原町電停の改修、仁愛女子高校電停の改良など実施。分岐器の重軌条化など設備の維持・修繕を行う。FUKURAMUの導入効果を高めるため運行時間を固定化した。沿線企業や学校に積極的なセールスを行った効果もあり年間利用者は1,901千人と前年比106.9%となる。

**自動車事業**：乗合バス事業収入は前年比89.3% ツアーバスの規制強化や路線バスの長期低落傾向などに歯止めがかからなかった。貸切バス事業は前年比で85.3%

**兼業**：物品販売は低迷していますが、車体広告は前年比102.1%であった。

取締役 宮下哲夫氏は当株主総会をもって退任されました。

## 新潟トランスス工場見学の報告

20140712 林 博、増田外来士

FUKURAMの新潟トランススの工場見学の機会を得られましたので報告します。

新潟トランスス(株)は、新潟鉄工と富士重工が合併し、IHIが10%出資して平成15年2月に設立された会社です。というより、熊本に国内初のLRVを納入して以来、岡山のMOMO、高岡のアイトラム、富山のポートラム・セントラム、それに福井のFUKURAMのトラムトレインを納入してきたメーカーといったほうが皆さんにはなじみがあるでしょう。このほかでは、最近話題となった三陸鉄道のディーゼル車は、取材や見学が殺到して断るほどだったそうです。



FUKURAMの納入の紹介



三陸鉄道納車前の記念写真パネル

工場見学の様子を皆様にもお見せしたいのは、やまやまなのですが、工場内は撮影禁止でしたので、見聞きしたことをお伝えします。なお、カメラは貴重品として持ち込み可能でしたが、さすがにゴーグルグラスのチェックは、まだありませんでした(誰もまだ持っていないって)。

まずは、鉄板などを切り出すマシニングセンター、レーザー切断機、部品を形作るプレスブレーキなど、メカニク的な機械群の並ぶさまはお見せできませんし、機械油の独特の臭いはお伝えできません。車両1台あたりの部品数は1万2千種類にもおぼり、そのなかでもとくに重要な台車、車体を主体に自社生産しており、念入りな検査を行い、20年30年と安全性を保てるようにしているそうです。一方、部品があまりにも多いため、内装部材、小さな部品、エンジンなどは外部委託しているそうです。VOLVOの13Lディーゼルエンジン、除雪車用の30Lのエンジンなどがありました。また、みなさんが一番関心のあるFUKURAM2号ですが、車両製缶組立ショップでそれらしき車体の外形が出来ていましたが、まだ内装や配線などをしており、その後いくつかの工程を経て組上がってから塗装されるそうで、まだ銀色でした。そのあとの塗装が終わった場所には、千葉のいすみ鉄道のディーゼル車が新車ながら昔の雰囲気のリトロな色で出来上がっていました。次は何色かたのしみ。

電車のほかにも、越後ときめき鉄道のロータリー除雪車、香港のゴムタイヤの車両などがあり、さらには、線路工事の後の点検車(夜間工事の後での短時間点検なので、予備のエンジンを積んでいる)など、初めて見るような様々な車両があり、オーダーメイドで安全を徹底的に追及して作られているという感じでした。それで安心して乗っていただけるのです、頑張ってください。

## 神戸電鉄粟生線存廃問題における議論『里山と粟生線を活かしたまちづくりシンポジウム』報告



神戸電鉄粟生線は年間の乗客数が672万人。それが今、存廃問題に晒されています。この問題は日本の交通政策の中で大きな転換点の一つとなる問題であると考えられ、今全国から注目されています。その沿線で開催された市民主催のシンポジウムがあまりに内容が濃かったのでご報告したいと思います。

私は去る6月15日、存廃問題に揺れる神戸電鉄粟生線（兵庫県）沿線の三木市立市民活動センターで開催された『里山と粟生線を活かしたまちづくりシンポジウム』に参加してきました。主催は粟生線の未来を考える市民の会。基調講演は藻谷浩介氏、パネルディスカッションはコーディネーターが関西大学教授の宇都宮浄人氏、パネリストがひたちなか海浜鉄道社長の吉田千秋氏、NPO法人RACDA大阪・堺理事長の福井隆一郎氏、神戸電鉄鉄道事業本部企画部部長の松本修治氏、そして、粟生線の未来を考える市民の会代表の山本篤氏と粟生線活性化コーディネーターのゆいみのり氏という超豪華な顔ぶれ。私は4月に粟生線の未来を考える市民の会の世話人会に飛び入り参加して以来のお付き合いですが、元はNPO法人公共の交通ラクダ（RACDA）の岡将男会長が以前粟生線未来を考える市民の会が主催する講演会で講師を務められてつながりがあり、そこからフェイスブックを通じてこの会の活動を知ったことからできたご縁でした。

まず、藻谷さんが『高齢化社会における里山と粟生線を活かしたまちづくり』という演題で講演され、いつものように人口動態の話を織り交ぜながら、粟生線の廃止論の根拠となっているような“常識”を否定し、公共交通を再評価・高度化している世界の流れを紹介、「粟生線が廃止されたら沿線を訪れる旅行者もいなくなり、三木市が消滅自治体となる可能性もある。」と指摘されました。そしてパネルディスカッション『地方鉄道から見る粟生線を活かしたまちづくり』では、ひたちなか海浜鉄道の吉田社長が「かつて存廃問題の渦中にあった湊線を茨城県とひたちなか市、市民、応援団の市民団体が残す努力を惜みず、第三セクターとして残ったあと、いろいろな取り組みを行ったが、行政や応援団のサポートもあり乗客が増加。東日本大震災で被災したもののすぐに復旧の合意がなされ、復旧。乗客が80万人を超え、今では国立ひたち海浜公園までの延伸が検討されている」と事例を紹介。RACDA大阪・堺の福井理事長が阪堺電気軌道に関し、堺市のLRT議論から市長選で現職が敗れて一転阪堺線の存廃問題が発生、ようやくLRT議論の意味を新市長が理解するところとなり、堺市の政策として運賃の全線一律化・新型低床車の導入が実施されて乗客が増加した一連の存廃議論の経緯を紹介した。圧巻はそ



の後で、神戸電鉄の松本部長が神戸電鉄の設立、粟生線敷設の経緯を説明したあと、「昭和 40 年代に入り神戸市の後背地に市街地が拡大する過程で粟生線沿線に大規模宅地開発が集中し、人口が急増していった。神戸電鉄は社会の要請として粟生線の輸送力増強を迫られた。神戸電鉄は資金を調達して線路の改修、複線化などの投資を行うこととなった。神戸電鉄は山岳路線。地形が陰しく、大規模な工事を余儀なくされた。ところが、粟生線の輸送力増強工事が進んでいた昭和 40 年代後半、神戸市（当時は、神戸市株式会社と言われ、「山、海へ行く」といわれる、山を削り海を埋め立てる大規模な都市開発を行っていた）が西神ニュータウンの造成に着手、昭和 50 年代に街開きを行い、そこに地下鉄山手線を延伸、西神線を開通させた。それをきっかけに人口流入の受け皿は西神ニュータウンに移り、粟生線沿線への人口流入が止まった」と説明した（※神戸市営地下鉄西神線では神戸市が主導して、沿線における宅地開発の開発利益内部化も行った）。また、「粟生線は平成 4 年度の乗客数は 1420 万人だったが、道路整備、少子高齢化等で減少し、平成 25 年度は 672 万人となった。平成 24 年度の経常収支は 9 億 7600 万円の赤字である」と説明。これに宇都宮さんと藻谷さんが詳しい補足説明を行ったのですが、このあたりが圧巻で、減価償却が支出の 24%と地下鉄並みで、償却前利益が神戸電鉄全線では黒字、粟生線ではトントンと宇都宮さんが指摘。藻谷さんも「年間 672 万人乗っているから廃止されないとと思われるだろうが、これは経営的に言えば廃止される。沿線住民がこの話を認識し、どうするのか議論することが重要」と指摘されました。また、松本部長はさらに「行政主催で勉強会を開催しても 4~5 人しか参加しない。市民主催のこのシンポジウムで何百人もの人にこの話を伝えることができた。非常に貴重な機会であった」と話されました。そして、山本会長が「このシンポジウムはゆいみのりさんが一人で人選を行い交渉し、今日を迎えた」と紹介されると、藻谷さんが「実は今日は本当に重要な催しが他に 2 つ重なっていた。しかし、ゆいさんが北関東で開催される鉄道の問題の自分の講演会に熱心に足を運んでいることを知っていた。そのゆいさんからの要請だったので何をさておき受けた。市民の皆さんは、粟生線を残すために頑張っているこのような人がいることを知って欲しい」と補足し、「今日知った粟生線に関する情報を、帰ったら周囲の人に是非広めて欲しい。」と念を押されました。

ひとつ補足しておきたいのは、このシンポジウムは決して行政の責任を追及するという種類ものではないということ。行政が粟生線存続のためのどのような施策を決定・実現するにしても住民の合意が必要ですが、行政の施策決定・実現を後押しするにはもっと多くの市民が知り、乗って支える行動を伴う意思表示が必要という趣旨で開催されたものであるということ。それは全国共通です。

このシンポジウムは、神戸電鉄の部長が参加して内実を公にし、藻谷さんと宇都宮さんが分かり易く詳しく補足・解説するなどにより、驚くほどレベルの高い画期的なシンポジウムとなりました。

最後に、このシンポジウムで話されたそのほかの重要な話をまとめておきたいと思います。

○地域鉄道は 8 割が赤字である。そのうちの 8 割は償却前黒字である。資産コストの一部を行政が負担することを検討する必要がある。

○粟生線問題は経営問題ではない。沿線が、早くコンパクトなまちづくりに舵を切らなければならないという話である。したがって神戸電鉄が考える話ではない。

○1000 人の利用者がある（公共・商業等）施設を駅前につくれば年間 72 万人、鉄道の利用者が増える。したがって 10 個の施設を駅前につくれば乗客数は元に戻る。

○鉄道とバスの役割分担を行う必要がある。

○政府は交通政策を方向転換した。交通政策基本法が昨年 12 月に成立、改正地域交通活性化再生法もその後成立した。

○このような局面においては市民活動が非常に重要である。

以上（文・清水）



作 / 漆崎 耕次

### 3年目に入ったグリーンカーテン！！

ピンチヒッターとして、どんなタイトルにしようかと考え、今でもときどき年賀状の名前を間違えてくる人のいる、かの有名なリンポー（林望）先生に倣って、リンポー日記としようと思いましたが、あまり語呂がよくないのでやめました。

今年もグリーンカーテンに挑戦しました。やっと目隠し代わりに断熱プラ板（2層ガラスの代用品）が外せて、部屋からの眺めはまさにグリーンカーテンです。FUKURAMUが通ると、緑とオレンジのいい配色になりますね。連作に弱いといわれるゴーヤですが、なんのなんの、3年目も立派なカーテンになってくれました。やはり地植えが一番ですね。

2階から見ると、ゴーヤ、アカメガシの生垣、線路際の雑草、電車と見事に緑のグラデーションです。



今年ダメだったら、フウセンカズラにしようと思いは準備しておいたんだけど、やっぱり食べられるものの方がうれしいよね。夏の間は、物干し台をグリーンカーテンの棚に代用してますが、今年の物干し台は、2年目ようやく採れた玉ねぎの保管場所にもなっています。去年は、ラッキョウみたいな玉ねぎしか取れなかったことから見れば、大収穫でした。物干し台さま、秋までよろしく（玉ねぎは、うますぎて、秋まで持ちません）。

#### 編集後記・・・編集委員より一言

内田（発行責任者）

『恒例のカーフリーデー、今年は9月20日、21日の2日間 福井 JC が企画する「秋の収穫祭」と連携して 福井駅前と県庁を結ぶ市道「県庁線」で行います。会員の皆さんの協力をお願いいたします』

林博(変集長臨時代理) 『編集超大変です！』

#### 事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail: roba@mbh.nifty.com

URL: <http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/>